

## イギリスで戸田研究所が国際会議

2017年11月16日

### ノルウェー、ニュージーランドなどの機関と主催 欧米の政府関係者、学識者が安全保障と核軍縮巡り議論

戸田記念国際平和研究所（創立者＝池田大作先生）が、ノルウェー国際問題研究所、ニュージーランドのオタゴ大学国立平和紛争研究所、英国紛争研究学会と共に主催する国際会議「協調的安全保障——核軍縮と軍備管理の再検討」が9、10の両日、イギリス・ロンドンで開催された。

第2代会長・戸田城聖先生が「原水爆禁止宣言」を発表し、核兵器を“絶対悪”であると糾弾して60年。本年は国連で画期的な「核兵器禁止条約」が採択され、核兵器の非人道性が叫ばれる一方、核兵器による威嚇や拡散の危機は喫緊の課題となっている。

こうした世界情勢を踏まえ、今回の会議は行われた。

会議には欧米9カ国の政府関係者、研究機関の代表をはじめ、核軍縮に取り組む学者・識者が参加した。

初日の第1セッションは、「国際安全保障の現状——協調的安全保障への展望」がテーマに。多くの国が制裁や武力行使といった威圧的な外交を前提としている現在の国際情勢において、対話や協力を通じた相互の信頼に基づく協調的安全保障の現状と展望について議論した。

続く第2セッションは、「核軍備管理と軍縮」を巡って。軍縮の取り組みが直面している課題と、協調的安全保障の視点がもたらす効果が語り合われた。

2日目の第3セッションは「核兵器禁止条約とNPT（核拡散防止条約）」が焦点に。

核兵器保有国や依存国などが将来的に核兵器禁止条約に署名する可能性や、禁止条約とNPTの双方のアプローチが補完し合う点などについて活発に論じ合った。

戸田研究所のケビン・クレメンツ所長は、世界の英知を結集し、国際社会に平和と安定を生み出す連帯を広げていきたいと語った。



戸田研究所などが主催した国際会議。数百年の歴史を持つ英国王立協会のある建物で行われた（ロンドン市内で）